



支払方法をデジタル化する、その一步が暮らしを快適に、社会にも貢献します!



電子納付が社会貢献にもつながることをご存知ですか?面倒だった「税金・公共料金」の支払いを電子納付に変えるだけで、暮らしの利便性が向上し、社会も良い方向に変わります。

●電子納付で実現!「暮らし」と「社会」のメリット

今までの紙による窓口での支払いから、電子納付に切り替えることで、私たちの「暮らし」と「社会」にどんなメリットが生まれるのか見てみましょう。

私たちのメリット(支払う人)

✔ メリット①

時間の有効活用/ストレス軽減

窓口で並ばずに済むため、時間を有効に使えるようになります。焦って支払いをしたり、長時間待つストレスもなくなります。



✔ メリット②

いつでもどこでも

Pay-easy(ペイジー)〈インターネットバンキング〉など、パソコンやスマホで24時間いつでもどこでも支払いができます。



✔ メリット③

支払い漏れを防ぐ

口座振替など、より確実な方法を選ぶことで支払い漏れや延滞リスクが軽減します。

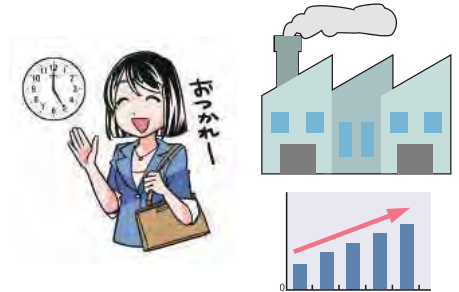


社会全体のメリット

✔ メリット①

生産性向上/人手不足の改善/働き方改革

紙による支払いから電子納付に切り替えることで、金融機関や自治体の窓口業務が軽減され、支払う側、支払いを受ける側双方の手間が省けます。その結果、生産性向上や少子高齢化による人手不足の改善等、社会全体の業務効率化につながり、より良い労働環境で生き生きと働ける働き方改革に貢献することになります。



✔ メリット②

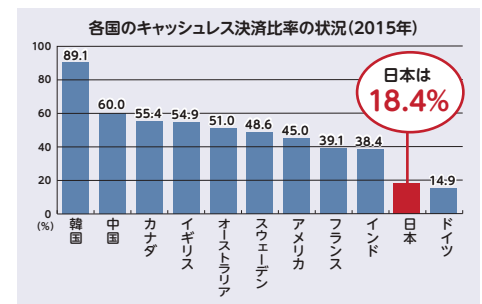
自然保護

大幅な紙の削減になるため、エコロジカルな社会の実現、経済性にも貢献します。



●経済産業省が掲げる「キャッシュレス・ビジョン」

暮らしのデジタル化の推進とともに、近年、利用率が増えている「キャッシュレス決済」。経済産業省は「キャッシュレス・ビジョン」において、現在は20%程度のクレジットカード、デビットカード、電子マネーなどによるキャッシュレス決済比率を、2025年までに40%程度に引き上げることを目指すという「支払い方改革宣言」を発表しました。



出典:経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」(2018年4月)より

税金・公共料金を支払う人に対してかかっている年間コスト(支払場所までの移動、書類記入、待ち時間等を費用換算)や、紙の納付書による収納にかかる費用の合計は、推定で2,000億円以上といわれています。

出典:一般社団法人全国銀行協会調べ(調査委託会社:野村総合研究所)2018年9月現在



